徳島県

町指定無形民俗文化財

牟岐音頭

音頭会

［出演者］

樫谷千重子（語り手）	松本多美子（踊り手）	平松ユリ子（踊り手）	布施　幸子（踊り手）
升田久美子（かけ声）	葛谷　玉代（踊り手）	春木ユキ子（踊り手）	小林キヨミ（踊り手）
竹岡　陽子（太棹三味線）	角田　　初（踊り手）	竹内由紀子（踊り手）	福田　順子（踊り手）
井元　三芳（拍子木）	大梅　謙治（踊り手）	戎谷　好美（踊り手）	

［行う時期・場所］
8月13日～15日
牟岐町内牟岐浦地区・中村地区
11月1日
牟岐町文化祭
（徳島県海部郡牟岐町）

牟岐音頭は、その年の新仏になった人の慰霊踊りとして生まれた踊りで、昭和47年（1972）3月1日に、町の無形民俗文化財に指定されています。

牟岐音頭の起源は明らかではありませんが、古老の話によると、昔、庄屋宅に寄寓していた浪人の作詞に、三味線師匠の平岡城松氏や油津城由氏が節付けして音頭が出来、踊りは大阪の住吉踊りの系統で振り付けられたそうです。初めの頃は新仏の家の前で踊られていましたが、そのうち近くの広場や辻で行われるようになり、「辻踊り」といわれるようになりました。また、踊る姿が幽霊に似ているので「幽霊踊り」とも呼ばれています。

牟岐音頭は現在では、8月13日から15日のお盆の期間中に踊られています。音頭語りは三味線弾き・拍子木打ちとともに二階式の音頭座に上がり、太棹三味線・拍子木に合わせて語ります。内容や節は義太夫くずしであり、「阿波の鳴門」など浄瑠璃をもとにした十四の外題があります。

踊り手は幕を垂らした一文字笠をかぶり、目の前だけ「のぞき」を作った衣装で、顔を隠して踊ります。踊りは6つの動作を繰り返すものであり、県内の盆踊りの中でも最も動きの少ないものであるといわれています。踊り手の素朴かつ優雅な踊りと、太棹三味線の哀愁を帯びた音色、及び牟岐音頭の独特な節回しがあいまって、まるで故人をこの世に呼び寄せるかのような、慰霊踊りにふさわしい雰囲気を醸し出します。

今回の演目は、数ある外題の中から「阿波の鳴門」を披露いたします。この芸題は、阿波人形浄瑠璃の外題としてよく知られている「傾城阿波の鳴門順礼歌の段」を題材としたものです。